

夢は叶うか

大津 隆文

「金メダルを獲得できたのは、自分の夢を信じて努力したお蔭です。夢は必ず叶います。皆様もどうか自分の夢を信じて努力してください」とは、優勝選手のインタビューでよく耳にする言葉である。

誰もが夢は叶うものだろうか。金メダルを手にした選手の陰には夢が叶わなかった多数の選手がいるに違いない。

野球やサッカーに熱中し将来のプロ選手を夢見る少年、歌が大好きで紅白の舞台を夢見る少女。もし身近にいたら何と助言すべきだろうか。

昔受験勉強に励んでいた頃、「蛭雪時代」という雑誌があった。地方の名門でもない高校に学ぶ身には受験のバイブルのような存在だった。

ある時受験生への励ましとして、各界の著名人の言葉が特集された。多くは本人の成功体験に基づく「努力は必ず報われる」「朝の来ない夜はない」といった内容。そんな中記憶に残っている異色な言葉が一つあった。

それは声楽家藤原義江氏の「いくら磨いても瓦は瓦、ダイヤモンドにはなれない」という真に冷徹な言葉であった。否定的で反発を覚えたが、一面真実かとも感じた。あるいは素質のない若い人に叶わぬ夢を追わせては可哀想、との親心だったのかも知れない。

どんなに努力しても、どんなに願っても夢が叶うとは限らない。成功には努力だけでなく、天賦の才能、環境、運の良さ(発明や発見、冒険の例)等も必要であろう。

しかし夢こそ個人にやる気や歓喜、社会に発展をもたらしてきた源泉だ。結果はともかく最初から夢を諦めるべきではない。夢に挑戦し、全力を傾けた経験は決して消えることはない。その経験は必ずその後の人生に生きる筈である。夢を見ること自体が難しい世の中になっているが、それだけに「明日は檜になろう」という「あすなる(翌檜)」のひたむきな思いに心から声援を送りたい。

自分の来し方は夢とか理想を追うより現実主義に傾いていた。瓦だからと瓦全に安んずるよりは、夢に挑戦すべきではなかったか悔いが残る。